

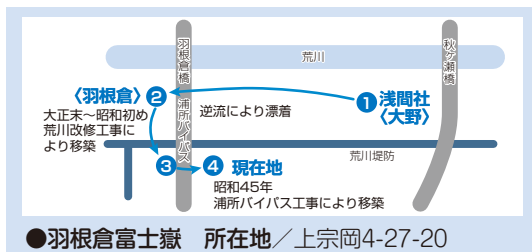
郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史 むんぽ

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

第32回 何度も再建された浅間神社
と羽根倉富士嶽

▶ 羽根倉富士嶽



●羽根倉富士嶽 所在地/上宗岡4-27-20

羽根倉橋のたもとにある宗岡の浅間神社の創建には、次のような伝承があります。鎌倉時代、源頼朝が富士の裾野で巻狩りをしたとき、宗岡の人たちが勢子の役を課せられ、そのごほうびに年貢が免除されたのを記念して、大野の地に浅間社を祀ったとのことです。

室町時代に大洪水があったとき、祠が逆流した水に押し流され、何と大野から上流の羽根倉の地に漂着したので、これも神のご意思であろうと、ここに祀ることになったそうです。この境内に、1880年(明治13年)富士塚・羽根倉富士嶽が築造されました。

1910年(明治43年)に起きた関東地方の大水害を契機に、大正末から昭和初期(1925年前後)に荒川の河川改修工事が行われ、河川敷にあった神社と富士塚が、宗岡村を取り囲む堤防の内側へ移築されました。

これで落ち着くかと思いきや、1970年(昭和45年)浦所バイパス(463号線)新設工事にともない、またまた移築を余儀なくされ、やっと現在の位置に落ち着きました。

このように予想外のことが三度も発生しましたが、宗岡の人たちはその都度神社も富士塚も再建してきました。これは素晴らしいことだと思います。

羽根倉富士嶽は、志木市の有形民俗文化財に指定されており、石造物が林立しています。浅間神社には、狛犬ではなく「狛猿」がいます。また、大きな「力石」が4個もあります。地域の方が大切に守ってこられたお宝がたくさんありますので、ぜひ行って確かめください。



▲狛猿

気回復につなげていきます。

あわせて、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種については、今後においても重症化のリスクを抑えるために、継続されることとなっています。本市における今後の接種スケジュールについては、65歳以上の高齢者及び基礎疾患を有する方、医療従事者等を対象に、5月1日からワクチン接種の予約を受け付けるとともに、5月8日よりワクチン接種を開始します。

また、5月1日からはマルイファミリー志木8階に「市民サービスステーション」がオープンします。これまで志木駅前出張所で取り扱っていた転入・転出などの手続きのほか、パスポートの申請・交付や、転入時の国民健康保険の加入手続きも新たに取り扱うとともに、水曜日を除く平日、そして土曜日・日曜日、祝休日も開所することで、利便性を向上させていきます。

さて、5月5日の子どもの日といえば、「鯉のぼり」を思い浮かべる方も多いと思います。いろは親水公園では、「端午の節句」に合わせて、5月20日まで鯉のぼりが風に泳ぎます。鯉は立身出世の象徴とされ、故事成語の登竜門にも関係しています。登竜門の「竜門」とは、黄河上流にある急流のことで、「竜門を登りきった鯉は天に昇って竜になることができる」という言い伝えがあり、鯉のぼりには、「どんな困難も乗り越えて力強く生き抜くことができますように…」という願いが込められています。

新河岸川にかかる鯉のぼりを前に、志木市の元気・活気に向けて、新入職員、先輩職員一丸となって、勇往邁進。鯉のぼりのように力強く進んでいきます。



志木市長 香川 武文

鯉のぼりのように力強く!

満開に咲き誇った桜の季節が過ぎ、5月を迎えました。4月には14名のエネルギーに満ち溢れた新入職員が入庁し、辞令交付式では、「常に自らを磨き続け、市民の皆さんとともに汗をかき、協働による志木市のまちづくりを推進していく職員」となるよう心構えを伝えました。ご来庁された際は、初心者マークをつけた職員が対応させていただく場合もあると思いますが、叱咤激励のほどよろしくお願ひ申し上げます。

去る4月16日には、45年という長きにわたり志木市の文化・芸術活動を支え、惜しまれつつも3月末に閉館した市民会館において、その最後を飾るイベントとして「ありがとう!市民会館」が開催されました。当日は、市内の文化団体をはじめ、実に多くの方にご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じました。長い間、猛威をふるった新型コロナウイルス感染症が5月8日をもって季節性インフルエンザと同類である5類に引き下げられることから、これまでは実施することが難しかった多くの人が集まるイベントや催しを、本格的に再開し、志木市の元